

第198回（令和2年5月31日施行）

## 2級商業簿記

### 第1問

本問は、基本的な取引における仕訳の理解を問うものである。

1. 開業準備に要した諸費用は、開業費勘定で処理する。
2. 前期末に繰り延べ計上した支払地代は、当期の費用となるので、期首に決算整理仕訳と貸借反対の仕訳を行い、費用に戻す処理を行う。なお、土地の賃借料である借地料は、支払地代で処理する。
3. 買掛金などの債務について、金融機関を通じて電子債権記録機関に発生記録を請求し、これが機関の記録原簿に記録されると、電子記録債務が生じる。電子記録債務の債務者は、電子記録債務勘定で処理する。
4. 営業用のトラックを売却したときは、車両運搬具勘定および車両運搬具減価償却累計額勘定を減少させ、帳簿価額(=取得原価-減価償却累計額)と売却価額との差額を固定資産売却損勘定で処理する。売却代金は主たる営業活動以外の活動から生じたものであるから、受取手形ではなく営業外受取手形勘定で処理する。
5. 配当金を支払ったときは、株主総会の決議により貸方に計上してある未払配当金勘定の借方に記入する。
6. 本支店間取引に係る簿記処理を問うている。本問では本店の仕訳が問われているので、支店勘定の借方と仕入勘定の貸方に記入する。
7. 株式会社における損益の振り替えに係る簿記処理を問うている。損失が計上されたときには、その金額を損益勘定の貸方に記入するとともに、繰越利益剰余金勘定の借方に記入する。

### 第2問

本問は、会計学でいう貸借対照表等式および損益計算書の利益計算式が、簿記ではどのように現れるか、とくに当期純利益の計算構造、ならびに、管理上必要な売上総利益をどのように算出するかを問うものである。

本問を通じて、仕入勘定で売上原価が計算されること、収益費用に関する勘定は損益勘定に振り替えられること、株式会社の会計では損益勘定残高は繰越利益剰余金勘定に振り替えることなど簿記記録の基本的な仕組みを確認して欲しい。

解答にあたっては、売上総利益は、売上勘定残高から仕入勘定残高を控除することで計算できる。また、仕入勘定と売上勘定の残高を損益勘定へ振り替えたうえで、損益勘定残高より当期純利益を計算する。この損益勘定残高は、繰越利益剰余金勘定に振り替えられる。なお、資本金（前期繰越）は、資本金（次期繰越）に増資の金額を減算して計算する。

### 第3問

本問は、仕入帳と売上帳の内容から取引を読み取り、払出単価の計算（移動平均法）、総勘定元帳、仕入先元帳および得意先元帳への転記ができるかを問うものである。

移動平均法は、単価の異なるものを受け入れたつど平均単価を求め、これを払出単価とする方法である。平均単価は、受入価額と受入直前の残高価額の合計を、受入数量と残高数量の合計で除して求める。

また、仕入帳と売上帳が補助簿であるため、取引はすべて日付順で仕訳帳に仕訳され、総勘定元帳の諸勘定、仕入先（買掛金）元帳と得意先（売掛金）元帳の人名諸勘定に個別転記される。

### 第4問

本問は、3伝票制における伝票の記入方法、仕訳集計表の作成を問うものである。入金伝票には借方が現金となる取引が、相手勘定科目のみを記入し起票される。また、出金伝票には貸方が現金となる取引が、相手勘定科目のみを記入し起票される。売上・仕入取引については、①いったん全額を掛取引として処理した後に掛代金を決済したとみなして伝票に起票する方法と、②取引を代金の決済手段ごとに分解して伝票に起票する方法がある。

### 第5問

本問は、付記事項と決算整理事項に基づいて記録の修正を行った上で、損益計算書と貸借対照表を精算表上で作成する方法を問うものである。

- ① 付記事項と決算整理事項を、期中に記録がある勘定は金額のみ、記録がない勘定は勘定科目を記入した上で整理記入欄に貸借記入する。
- ② 収益・費用の勘定に、整理記入欄の修正額を加減し、損益計算書欄に書き移す。
- ③ 資産・負債・純資産（資本）の勘定に、整理記入欄の修正額を加減し、貸借対照表欄に書き移す。
- ④ 損益計算書欄の合計額を計算し、貸方の収益合計が大きい場合は当期純利益であるから借方に記入し、合計額で計算結果を照合する。当期純利益は純資産（資本）の増加であるから貸借対照表欄の貸方に書き移し、貸借対照表欄の合計額の一致によって当期純利益を検証する。